

1 経営方針

- ①全ての生徒・教職員が自ら学び、自ら参画する学校を目指す。（1-①）
- ②全職員が「私は」ではなく「われわれは」と考える組織的な学校経営を推進する。（1-②）

2 重点目標

- ①不断の授業改善（2-①）
 - ・授業の魅力化
 - ・授業公開週間、授業評価アンケートの有効活用
- ②高い人権意識と安心・安全な学校づくり（2-②）
 - ・すべての生徒、教職員が他者を思いやる言葉とふるまいを心がける
 - ・感染症対策を含め生徒の安全確保を前提とした教育活動、部活動、寮生活
- ③社会人として期待される挨拶、身だしなみ、ふるまいが当たり前に行えるようにする。（2-③）
 - ・すべての教職員が積極的に生徒に関わり、継続的に指導を行う

令和 7 年度 各分掌等の重点目標及び具体的目標

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
総務部	1-②	学校行事の円滑な運営	入学式、卒業式、課題研究発表会などを通して、地域・同窓会・PTAと連携した学校をつくる。	学校評価の教員の集計結果	90%以上	80%以上	80%未満	A	教員92.1% 提案する行事においては、不易を大切にしながら新しいことを取り入れるように努めた。今年度から新たな業務も入っており、早めの計画、提案を徹底していきたい。	A
	1-②	広報活動の充実 (家庭や地域への情報発信)	学校通信、学校新聞、さくらメール発信とホームページの更新を積極的に行う。	学校評価の教員、保護者の集計結果	90%以上	80%以上	80%未満	B	教員86.5%、保護者86.1% HPの更新については、行事毎に更新してきた。今後は、過去の掲載の整理をしていきたい。 学校新聞は、毎月新しい情報を載せ作成することができた。さくらメールについては、ペーパーレス化の意味からもより有効な利用方法を検討したい。	B
教務部	2-①	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた不断の授業改善	・授業チェックリストを活用した授業改善 ・授業互見の活性化 ・授業アンケートの有効活用	学校評価アンケートにおいて「授業改善に取り組んでいる」と答えた教員の割合 「授業や実習が、自分自身のためになったと思う」と答えた生徒の割合	3.5点以上	3.0点以上	3.0点未満	教員B 生徒A	先生方の創意工夫によって、生徒自身のためになっている授業や実習が行われていることが読み取れる。しかし、授業互見による相互連携やICT機器の利活用も視野に、より一層の授業改善に今後も取り組む必要がある。	A
	1-②	積極的な生徒募集と入学者選抜の検討	・学科と連携したオープンスクールの工夫 ・総合選抜における募集区分や基準の検討	令和8年度募集定員に対する入学者の割合	85% (136名) 以上	75% (120名) 以上	75% (120名) 未満	C	市内中学3年生の生徒数減少の中、オープンスクールの参加者および総合選抜の出願者も昨年度並みと健闘したが、一般選抜を含めた最終志願者は110名に満たず、今後も学校の魅力化と生徒募集の工夫が必要となる。	C

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
生徒部	2-② 2-③	生徒育成に向けた教職員の協力体制の充実	・全教職員による日常の生徒指導への関りの充実を図る。 ・生徒主体の活動になるように、生徒会、各種委員会活動における情報の共有、事前準備を充実させる。	(教員)「わたしは日頃から頭髮・服装指導ができている」「わたしは掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている」 (生徒)「わたしは掃除時間を守って、掃除をしている」「わたしは本校の頭髮・服装規定を守っている」「わたしはまじめに授業に取り組んでいる」 (保護者)「服装・頭髮指導、交通安全指導などの生徒指導を適切に行っている。」「わたしの子どもは本校の服装規定を守っている」 上記学校評価の平均点	3.5 点 以上	3.0 点 以上	3.0 点 未満	B (3.4)	生徒や保護者の「規定を守っている」は高くなっており、生徒間での意識の高まりをより一層促していきたい。また、小さな乱れも見逃さず一律に指導していこうように全教員で取り組む意識づけ・体制づくりをしていきたい。そして保護者に生徒指導についての理解を深めてもらうように努めていきたい。	B
	2-② 2-③	魅力ある学校を目指した生徒会活動の推進	・体育祭・翔陽祭で地域の方々との積極的な連携を目指す。 ・部活動や各行事での身だしなみや礼儀作法等、印象のよい行動ができるよう日頃から指導する。	(生徒)「わたしは学校内であいさつをしている」「わたしは正しい言葉使いをしている」「わたしは体育祭、翔陽祭など、本校の学校行事に満足している」 (保護者)「本校の部活動は、活動内容や時間などからみて適切に行われている。」「保護者の学校行事などのPTA活動への参加は活発である。」「わたしの子どもは挨拶・返事・正しい言葉遣いができる。」「子どもを益田翔陽高校に入学させて良かったと思う。」 上記学校評価の"全体"の平均点	90% 以上	80% 以上	80% 未満	B (88.0) %	「学校行事に満足している」が大きく下がっているのは、内容に対してなのか行事に臨む際の身だしなみ指導に対してなのか検討し、学校行事への取り組みについて生徒主体の企画・運営を進めつつ、身だしなみ・ふるまいについて日頃からの指導を徹底していきたい。部顧問にも技術だけでなく、ふるまい等についても続けて指導してもらい、保護者の理解にも努めていきたい。	B
進路指導部	2-①	生徒の進路選択の幅を広げる	・求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。 ・進路検討会を活かした粘り強い進路指導を行う。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合	95% 以上	90% 以上	90% 未満	C	進路だよりやホームページで進学・就職の情報をクラスに伝達している割合平均 83.2% 昨年度に比べ、生徒の評価は上がったが、教職員の評価は下がった。Handy進路指導室の利用は進んだ。教職員への情報提供の案内を積極的にすばかった。	C
	2-①	生徒が希望する受験先を確保する。	・3年生の担任との連携を深め、生徒の希望状況を早くつかむ。 ・企業・上級学校の情報を確実に担任・生徒に伝える。	希望する企業・学校に内定・合格することが出来たという3年生の割合	100% 以上	90% 以上	90% 未満	B	第1志望先への合格率 97.5% 学年部、学科、進路指導の先生方が丁寧に生徒の進路相談をしていただいたおかげで、上記の合格率になった。次年度も引き続き連携を密にし、より良い成果を上げていきたい。	B
	2-②	県内企業への就職率の向上と県内大学への進学者の促進	・保護者参加型行事の全学年周知を徹底して参加者を増やし、保護者の県内企業への興味関心の高揚を促す。 ・県内大学総合型選抜の研究をして、生徒の進路指導に活かす。	・県内企業内定者の割合 ・県内大学進学者人数	70% 以上	60% 以上	60% 未満	C	県内就職者 R6 60.2%→ R7 52.5% 県内大学 R6 3人 → R7 3人 今年度はA科、G科の就職希望者が少なかったため、県内就職者の割合が減少した。 県内大学進学者は昨年と同じ3人であった。	C
保健相談部	2-②	健康教育の推進	講演会の実施や保健通信を通じて、保健情報や健康情報を発信する。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている、学校は保健通信などで感染症、健康診断、SC来校案内などの保健情報を提供していると答えた教職員、生徒の割合。	90% 以上	80% 以上	80% 未満	A	教職員89.5%、生徒92.7% 昨年度よりも高い数値となっている。今後もすべての生徒・教職員が安心、安全に学校生活が送れるよう、担任をはじめとする各部署と連携し、適切な情報発信に努めたい。	A
	2-②	清掃活動の徹底	生徒保健委員会からの呼びかけもふまえて、時間いっぱい清掃することを徹底する。	「わたしは掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている」「わたしは清掃時間を守って掃除している」と答えた教職員・生徒の割合。	90% 以上	80% 以上	80% 未満	A	教職員92.1%、生徒97.5% 教職員の数値が昨年度よりも高くなり、指導の改善がなされたと認識している。引き続き校内の環境美化のため指導の徹底をお願いしたい。	A
	2-②	相談活動の充実	校内での情報共有に努め、必要に応じて保護者・外部機関との連携をはかり、相談体制や支援体制を充実させる。	「生徒の病気・けがや早退等について家庭連絡を行っている」「生徒の心や体の悩みについて応じてくれている」と答えた保護者の割合。	90% 以上	80% 以上	80% 未満	B	保護者84.95%(89.6%、80.3%) 家庭への連絡については若干数値は下がったものの一定の評価はいただいている。生徒の心と体の悩みについては、担任、SCなどと連携しながら取り組んでいきたい。	B

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
図書研修部	2-①	図書館の利用促進	利用しやすい環境を整備し、広報活動を充実させる。	利用しやすいと答えた生徒・教職員の割合	90%以上	75%以上	75%未満	B	広報活動を充実させるため、図書館から発行したものをポータルサイトにあげ、朝読書の巡回の時に生徒へ声掛けをする。	B
	2-②	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒・教職員の割合	90%以上	75%以上	75%未満	B	今後は「知識としての理解」を「実践的な行動」へ繋げるため、クラスの課題をより反映した主体的・対話的な学習場面を拡充させたい。	B
寮務部	2-②	規律ある寮生活を確立する。 1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする 3. みんなと仲良くする	生活時程を守り、集団行動ができるようにする。清掃および片付けを丁寧にするように指導する。寮務部・舎監など関係者間での連携を密に取り、指導を徹底する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒、およびその指導ができたと答えた教員及び舎監・炊事員の割合。	95%以上	90%以上	90%未満	B(90.9%)	今年度から月に一度「寮ミーティング」を行い、生活全般について振り返りと改善を重ねてきた。生徒の意識は大幅に改善された。指導する側も寮のあるべき姿の理想が高くなったこともあり、全体としての達成度はBであるが、来年度は寮務部や舎監の指導がもっと生徒に届くように改善していきたい。	B
事務部	2-②	安全・安心で良質な教育環境の創出	老朽化が進む施設設備の適切な維持管理や積極的かつ柔軟な業務改善に取り組み、生徒と教職員ののびのびとした教育活動をサポート	安全・安心で良質な教育環境の整備が行われていると答えた生徒・教職員の割合	80%以上	60%以上	60%未満	A 88.1%	① 外観は丈夫そうな樹木が強風で倒れる事案があり、人的被害はなかったが、停電や機器故障など二次被害に繋がった。日常点検の重要性を再認識するとともに、先入観に囚われないより強い先回り対策が必要として、整備範囲を拡げて予算要求していく。 ② 課題研究など生徒の教育活動に施設管理者の立場から協力することによって、中庭の池の水質浄化や農場と校舎を結ぶ生徒動線の利便性向上に繋がった。また、農業土木コースの生徒及び指導教員には通学路脇の法面保護のため土嚢による土留めを整備していただいた。今後も本校が持つ様々なポテンシャルを発揮し、学校全体でより良い教育環境の整備に努めていく。	A
農場部	2-①	魅力ある農業教育の深化と実践	地域と協働し地域活動に積極的に取り組み、地域産業を担う生徒の育成のための事業を継続して行う。	地域連携・貢献事業の実施回数 (月平均4回以上の実施) 実施回数 50回以上(A)36回以上(B)、 36回未満(C)	50回以上	36回以上	36回未満	B 40回	校内だけでなく、地域に出かけての連携活動などを例年並みに実施することが出来た。生徒のやる気を促すためにはもう少しホームページなどを活用し生徒の活動を発信することが今後の課題である。	B

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価	
				A	B	C				
電子機械科	2-② 2-③	社会に通じる人間性豊かな生徒の育成	学校生活を通して、整理・整頓・清潔・清掃・躰(身を美しく)を意識づけ、あいさつや言葉使い、行動など基本的な生活習慣の向上を図る。	教室、実習棟、更衣室等において整理・整頓・清潔・清掃・躰を意識して取り組み、積極的に実行できた生徒の割合	A	B	C	B	達成率が低い学年があり、また、達成率が高くとも意識の持ち方が低く感じる学年もある。担任・科の協力により、少しずつではあるが意識して行動できるようになってきてはいる。意識の持ち方を高めて、より充実した取組みになるように日頃からの声かけや行動を行いことで達成率を向上させることで、学習意欲や進路意識の向上につなげる。	B
				生徒に意識づけを行い、生徒とともに実行できた教員の割合	90%以上	80%以上	80%未満			
	1-①	進路意識の向上	進路実現のため、生徒が主体的に資格や検定などに取り組めるように補習などの学習指導を充実させる。	資格・検定に積極的に取り組み、計画的に学習や補習に取り組んだ生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	C	いくつかの資格・検定での合格率の下降がみられた。理解度からして期間や回数がいままで以上に必要であったと感じた。来年度は、回数や期間をこれまで以上に増やすことで合格率や取組み意識の向上につなげる。	C
					あいさつや言葉使い、行動について他者を思いやり、意識して取り組むことができた生徒の割合 生徒に意識づけを行い、生徒とともに実行できた教員の割合	90%以上	80%以上			
2-①	充実した工業教育の取り組み	地域連携や他学科と連携した取り組みの実践	地域や関連企業、他学科と連携活動した回数	35回以上	25回以上	25回未満	B	連携の取り組みとしては昨年と変わりにはなかったが、校内での認知や情報の発信が低かった。次年度もできるだけ校内・外で連携できるように取組み、情報を積極的にを行う。	B	
電気科	2-③	工業人としての心構えの育成	みだしなみ、頭髪及び授業の準備、レポート等の提出期限を徹底する。	みだしなみ検査で規定が守れている生徒の割合	90%以上	85%以上	85%未満	B	86.4%と電気科が一番低い状況になっている。普段の授業の中でも、みだしなみに注意を図るように継続的な指導が必要である。	B
				期限内にレポート提出した生徒の割合	90%以上	85%以上	85%未満	B	86.4%で2年生は75%と低くなっている。3年生は96%を示しており、学年による格差が大きい。期限を守る意識を付けるように改善していきたい。	B
	1-①	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する。	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	85%以上	75%以上	75%未満	A	88.1%で2年生は第二種電気工事士の合格率が2年連続で100%であった。1年生は77.8%で資格や検定への意識が低いので、もっと1年生へのアプローチを改善していきたい。	A
	2-①	魅力ある工業教育の実践	地域連携や他学科と連携した取り組みを推進する。	実施回数 30回以上(A) 25回以上(B) 25回未満(C)	30回以上	25回以上	25回未満	A	今年度も、電気ボランティアで老人宅や公民館に出かけ、エアコン、換気扇等の清掃を行った。連理松センターでのイルミネーションの設置などを行った。出前授業では、中学校2校、さいえんすたうん、連理松センターでのプログラミング教室を行った。サン電子工業様の出前授業をして頂くなど地域交流を行った。課題研究でも、地域交流や他学科との交流を目指したものが増えてきている。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
生物環境工学科	2-①	生徒の進路意識の向上	農業・農業関連産業に興味・関心を高める学習活動を展開し、関連産業・地元就職者を育成する。	関連産業への進学・就職の割合が 60%以上(A) 50%以上(B) 50%未満(C)	60%以上	50%以上	50%未満	A 65.63%	環境土木コースでの進学、就職・公務員を希望する生徒が多かった。他のコースでは多様な進路を選ぶ生徒も何人か見られた。農業系の進学者も例年に比べても多く、今後の活躍が期待される。	A
	2-③	地域交流をとおして、社会に通じる人間力の育成	学校生活、地域交流活動を通して、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどが向上するように指導する。	学校生活、地域交流活動を通して、積極的な挨拶が出来るようになった。身だしなみ、言葉遣いに気をつけ行動したと答えた生徒の割合。90%以上(A)、80%以上(B)、80%未満(C)	90%以上	80%以上	80%未満	A 92.5%	販売学習や校外活動において積極的な挨拶や身だしなみ、言葉遣いを意識するなど、生徒のコミュニケーションスキルも徐々にではあるが向上してきた。今後とも継続していきたい。	A
総合学科	2-①	授業での地域交流の推進 生徒の進路意識の向上	総合学科の特徴的な授業で、生徒に様々な人や場所、産業とのつながりを積極的に持たせ、進路意識の向上を図る。	○下記の特徴的な授業や活動が、進路の方向性を定めるのに役立ったと答えた生徒の割合 ・1年生 産業社会と人間・食品と福祉 ・2、3年生 総合的な探究の時間・系列の授業 ○外部連携の授業を行ったと答えた教員の割合	90%以上	80%以上	80%未満	生徒 94.2% A	1,2年次の段階的な地域連携の成果として、今年の課題研究は、83%の生徒が地域と連携した素晴らしい研究をすることにつながり、そこでの経験や力が進路に繋がっていた。生徒の希望や実態に合わせた連携を次年度も工夫したい。	A
	2-② 2-③	社会に通じる人間力の育成	学校生活、地域交流活動を通じて、挨拶、身だしなみ、言葉遣いなどが向上するように指導する。	次の3点を意識して生活できたと答えた生徒の割合、教員の評価。(A…生徒・教員80%以上、B…70%、C…70%未満) ○授業等のはじめと終わりの先言後礼をする。 ○頭髪、首元、スカート丈、靴下など校則に従い、身だしなみを 整えて毎日過ごしている。 ○場に応じた言葉遣いができる。	80%以上	70%以上	70%未満	A 生徒97%	生徒も意識をした身だしなみ等に心がけていた。しかし、年度後半から、髪型や化粧等において、十分でないと思われる生徒が少数見られる。継続した声掛けが必要。また、挨拶もおおむね良いが、できていない生徒に対しては、まず教員側からの姿勢をみせていくことも大切。	A

分掌	重点項目番号	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	反省及び次年度への課題等	外部評価
					A	B	C			
1年学年会	2-②	他者を思いやる行動をする	日常のふるまいや発言、SNS上での発信などについて、他者を傷つける可能性がないか、よく考えるよう注意喚起する。	「日常のふるまいや発言、SNS上での発信などについて、他者を傷つける可能性がないか、よく考えて生活することができた。」と答えた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B (93.6%)	学年会及びLHRなどを通じて、他者を思いやる大切さを伝えてきた。今後も継続的に、自身の発言やSNSでの発信について気を配るように促したい。	B
	2-③	基本的な生活習慣を身につけ、基礎的な人間力を育成する。	①身なりを整える 制服について、ルールに従った着こなしをするよう注意喚起をする。	「制服を学校のルールに従って着ることができた」と答えた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	B (91.9%)	概ね良好だと考える。今後も学年集会やLHRを通じて継続を促したい。	B
			②提出物を出す 定められた期限を守り、提出物を出すよう注意喚起をする。 ③礼を正す 分離礼(語先後礼)の励行をする。	「提出物を期限通りに提出した」と答えた生徒の割合。	95%以上	80%以上	80%未満	C (75.4%)	自ら学習に向かう姿勢が、まだまだ不十分だと考える。学年集会や各担任からの声掛けで改善を図りたい。	B
2年学年会	2-③	社会人として期待される基本的な生活習慣を育成し、明確な進路目標を設定させる。	基本的な生活習慣の育成 1 時を守り(時間を守らせる) 2 場を清め(環境美化に努めさせる) 3 礼を正す(語先後礼・挨拶・身だしなみ・他者を思いやる言動をさせる)	始業時のチャイムを自席に着席して聞いていると答えた生徒の割合。 挨拶や返事・言葉遣いをきちんとして学校生活を送っていると答えた生徒の割合。 日常の服装・頭髪の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	A	結果は概ね良好だが、教職員の2年生に対して指導したと答えた割合が、チャイム着席82.4%、挨拶・服装・頭髪82.9%と他学年の同じ項目と比較して低い値となっている。学年部の教員を中心として継続的に指導を行い、指導が通る集団を形成していきたい。	A
			インターンシップ・研修旅行を通じて具体的な進路目標を設定させる。	具体的な進路目標を設定することができた生徒の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	A	具体的な進路先の希望を決めている生徒の割合は特に就職で低い値となったが、インターンシップ・研修旅行前後の学年集会や学年通信、日々の担任の指導を通じて生徒の進路意識を高めることができたと感じている。	A
3年学年会	2-③	進路実現に向けた自己指導能力の育成	自己指導能力育成に向けて、遅刻をしないように昇降口での指導を行う。授業時間開始を守るように指導する。授業関係、進路関係の提出物を期限内に出すように指導する。	学年全体の遅刻の回数が2年次より少なくなっていること。 授業開始時間が守られている。かつ、提出物の期限が守れていると判断した教職員の割合と、授業の開始時間が守られ、かつ提出物の期限を守っていると答えた生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	A	学年全体の欠席数、遅刻数は2年次より減少した。日々の授業においても授業開始時間、提出物の提出期限を意識し生活できた生徒の割合が多かった。3年生としての自覚が芽生えた生徒が多く、この傾向を次年の3年正にも引き継ぎたい。	A
			進路実現のために、服装頭髪などを守るよう指導する。来校される方への挨拶や日ごとの言葉遣いが正しくなるように指導する。	日常の服装・頭髪の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。	90%以上	80%以上	80%未満	B	教員の自己評価において、頭髪指導について指導できたと答えた割合が82.9%だったことから、学年部全体で指導しようとする姿勢はできなかった。共通意識で指導できるようにもっと連携を図るべきだった。	B
			進路実現に向けて、進路指導の充実を図る。定期的な学年集会、夏季補習、計画的な面接指導を実施する。	目標とする進路が実現できたと答えた生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	A	進路指導部と各科が中心となって生徒の進路指導を行った。多くの生徒が第1希望の進路先に決定しており、生徒の進路実現に貢献できた。看護系学校、公務員指導では科を超えて面接指導を行った。4学科が連携して行う進路指導も必要だと感じた。	A